

1 H24年度 研究主題

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成

【1 主題設定の理由】

新学習指導要領実施2年目となり、言語活動の充実や確かな学力の定着等を図りながら、「生きる力」の育成が継続して問われている。また昨年の東日本大震災を期に、それまでの個人の幸福を中心に据えた生き方から、自分を取りまく人や環境を大切に、仲間と力を合わせ「ともに生きる」ライフ・スタイルへと価値観の変化が見られているといわれている。

本校の教育目標は「心ゆたかに たくましく とともに生きる」である。中でも知育の側面では

- ・ 自分の思いや考えを表現する
- ・ 学び合って、考えを深める
- ・ 生活や学習に活かす

ことを通して「楽しんで学ぶ」子どもの姿を実現し、「確かな学力を定着させ伸ばす」ことが重点となっている。

本校は、ここ数年継続して国語科を研究教科としてきた。

- ・ 書く活動や学び合いを通して、読解力を高める授業展開の工夫
- ・ 基礎基本の・確実な定着に向けた取り組み（パワーアップの時間の充実、辞書の活用、読書活動の推進、家庭学習の定着・充実、全校テスト、詩の暗唱等）
- ・ 学ぶ意欲を高める環境作り

などに取り組み、次のような子どもの姿の実現に寄与してきた。

- ・ 学習に意欲的であり漢字・計算などの基礎学力が定着している。
- ・ 自分と違う考えを取り入れる態度や、文章の内容を的確に読み取る力が育成されてきている。
- ・ 話し合いで考えを深め合うこと、国語以外の教科で問題文を正確に読み取ること、文章表現の正しさや豊かさ等は継続した指導が必要である。

平成24年度本校は、文科省指定「環境教育」「学校支援地域本部事業」および仙教研「保健・安全教育」の3つの研究指定を受けている。多岐にわたる実践の成果を共有していくために、今年度は研究教科を特定せず次の2点の言語活動にポイントをおいて研究をしていくこととした。

- ・ 自分の思いや考えを表現する場としての「書く活動」
- ・ 考えや思いを深めるための「学び合いの活動」

これらのことから、今年度の研究主題を「自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成」とした。

【2 研究仮説】

各教科において教科のねらいを明確にししながら、自分の考えをもつための書く活動を取り入れたり、考えを広げたり深めたりするための学び合いの活動を適切にマネジメントしたりすることにより、児童の読解力の育成がはかれるだろう。

【3 研究の重点】

<めざす子供像>

- ・ 主体的に学習に取り組み基礎基本を身につけている。
- ・ 自分の思いや考えを適切に表現する。(文、音声、教科に応じて)
- ・ 課題に沿って互いに学び合うことができる。(話す・聞く)
- ・ 新たな課題意識をもって学習したことを生活に積極的に生かそうとする。

→①書く活動や学び合いを通して、読解力を高める授業展開の工夫(授業)

②基礎・基本の確実な定着にむけた取り組みの推進(日常の取り組み)

③学び意欲を高める環境づくりの工夫(環境)

(4) 共通実践事項

①書く活動や学び合いを通して、読解力を高める授業展開の工夫(授業改善)

● 理解や表現のための書く活動を取り入れる(書く→学び合う→書く)

- ・ 教科に応じた読み取り方(学び方)
- ・ 発問の工夫
- ・ 自分のことばでまとめる時間の保障

● 学び合いの充実

- ・ 場面の設定、学習形態の工夫(ペア・グループ等)
- ・ 適切な視点の与え方、マネジメントの仕方
- ・ 自己評価力の育成

②基礎・基本の確実な定着に向けた取り組み(日常の取り組み)

● パワーアップの時間の充実

● 辞書の活用(3～6年)

● 読書活動の推進(図書委員会を中心に)

● 家庭学習の定着・充実

● 音読カード

● 全校テスト(漢字・計算)

③学び意欲を高める環境づくりの工夫(環境)

● 全校学習コーナー

- ・ 家庭学習コーナー
- ・ お手本ノートコーナー
- ・ 前の学年にお手本ノートを残す

● 学級の学習コーナー

◎研究班を決めて

①授業改善・・・発問/ノート指導★/学び合い★/評価 等

(岸・櫻庭・校長・佐々木)

②日常の取り組み パワーアップの時間の共通理解/習得させたい語彙★/家庭学習の手引き 等

(六郷・時田・鈴木・教頭)

③学習環境 掲示板「学習コーナー」の計画、取り組み等

(高橋里・松本・釜田・相庭)